



第123号で赤谷センターの取り組みを紹介しました「ホンドテンモニタリングを活用した環境教育教材の開発」について、このたび「森へのアプローチ」**「ホンドテンは森をどう見ている？」が完成しました。**
みなさんは、**ホンドテンを知っていますか？**

ホンドテンは、長くほっそりとした体つきと短い手脚が特徴です。海



ホンドテン (冬毛)

岸近くから奥山まで日本各地に広く生息している身近な動物で、動物や植物（主に果実）などを食べます。ネズミ類はもちろん、サワガニなども大好物で、バッタ類や甲虫類も好物です。樹上のリスや鳥も襲います。

植物では、イチゴ類やクワ、カキ、ヤマブドウ、サルナシなどを食べ、日本に生息する哺乳類の中でもトクブクラスの幅広い雑食性を誇ります。ホンドテンは、ネズミ等の小動物を食べ、その数を調整し、植物の実を食べながら、糞として種子を散布するといった森林生態系の中で重要な役割を果たしています。

赤谷プロジェクトでは、赤谷プロジェクト・サポーター（ボランティア）が中心となってホンドテンの糞を採取し、赤谷プロジェクトが分析・評価するホンドテン・モニタリング調査（通称・テンモニ）を2005年から行ってきました。採取したサンプリングした数は2015年までの10年間で5199個にも及びます。

テンモニは、ホンドテンの生活を観察することによって森を理解することを目的としています。

先行研究や最近の知見から、ホンドテンは幅広く動植物を採餌対象としていることが知られており、

これら採餌物を解析すれば生息する森林環境の理解につながる可能性が示唆されています。

それにしても、フンから森が見えるなんて！おもしろいと思いませんか？

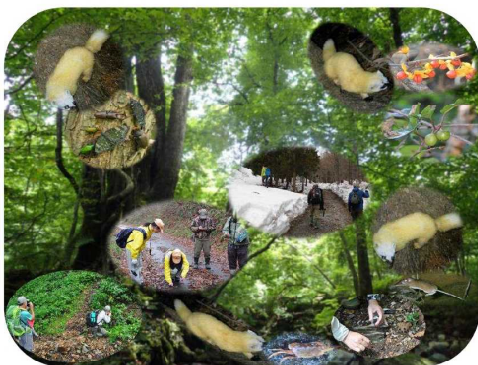
今回、この成果を環境教育活動にいかしたいと考え、赤谷センターとテンモニに携わっている赤谷プロジェクト・サポーターのみなさん（ホンドテン・モニタリングチーム、通称テンモニ隊）と協働で「実践環境マニユアル【森へのアプローチ】ホンドテンは森をどう見ている？」と、

ホンドテンやモニタリングの方法をわかりやすくまとめた「始めよう！ホンドテン・モニタリングどうしてホンドテンなの？」を作成しました。

【森へのアプローチ】ホンドテンは森をどう見ている？」は赤谷森林ふれあい推進センターのホームページからダウンロードできます。読んでいただいた後にやってみてください。みなさんはもうテンモニ隊の一員です。

一緒にテンモニしてみませんか？

実践環境教育マニユアル【森へのアプローチ】
「ホンドテンは森をどう見ている？」



林野庁 関東森林管理局 赤谷森林ふれあい推進センター
赤谷プロジェクトサポーター テンモニ隊(ホンドテン・モニタリングチーム)

ホンドテンは森をどう見ている！